

「滝紅中 校長日記」スマホで気軽に、パソコンでじっくりと、ぜひご覧ください！



大好きです！ 笑顔とあいさつあふれる滝紅中

令和3年7月 第5号

北区立滝野川紅葉中学校

校長 井口尚明

TEL 03-5907-5020

# 滝紅中だより

<教育目標> 学び考える人 優しく心豊かな人 鍛え努力する人

## 運動会映像配信

今年度の運動会は無観客での実施となりました。やむを得ないこととは言え、苦渋の決断でした。このような状況の中何とか生徒たちの頑張る姿を多くの皆様にお届けできないか。その思いを見事におやじの会とPTA役員の皆様がかなえてくれました。事前の機材レンタル、早朝から配線やカメラなどのセッティング、一日中撮影と機材の操作、録画映像の編集作業等々。熱意に満ちたご支援とご協力のお陰で、生徒たちの姿を余すことなく、また臨場感をほとんど損なうことなく各家庭にお届けすることができました。おやじの会やPTA役員をはじめ、滝紅中保護者の皆様のご理解とご協力に心より感謝申し上げます。

## 大成功！感動広がる運動会

雨は上がりましたが、校庭はぬかるみ、水たまりが至るところにできていました。係り生徒や早く登校した生徒、先生方が砂をまいたりスポンジで水を吸ったり、必死の対応をしてくださいました。そのお陰で何とか校庭が使えるようになりました。運動会が始まる前から、生徒のやる気と先生方の熱意、滝紅中の団結力のすばらしさを感じるようになりました。



フィールドの競技を午前、コースを走る競技を午後プログラム変更したのは正解でした。日差しがあったため、午後には校庭の全面がほぼ使えるようになり、一番心配していたリレー種目でのケガなども無く無事に競技を行うことができました。朝早くから整備してくれたお陰だと、改めて感謝の気持ちがあふれました。

今年度も吹奏楽部の迫力あるファンファーレで運動会の幕が開きました。スローガン「勇気片手に羽ばたこう！」を掲げ、生徒たちが練習の成果を思う存分に発揮してくれました。運動会の目標は、感謝の気持ちとフェアプレイの心を忘れずにすべてに全力で取り組むこと。そして、主役である生徒の心にも、応援して下さる人の心にも感動を与えることです。運動会が終了したときに、滝紅中生がこの目標を見事に達成してくれたと、心の底から感じました。競技はもちろん、係り活動や応援など、どんなことにも力の限り取り組み輝いていました。映像での参観となりましたが、そのひたむきな姿にご家族の方々も心を動かされたのではないのでしょうか。とくに3年生の運動会にかける思いには目を見張るものがありました。最高学年としての使命を自覚し責任を果たしてくれました。3年生のリーダーシップがあったからこそ、クラスや学年の枠を越えて全校生徒の力が1つにまとまり感動の運動会につながったのだと思います。滝紅中の伝統を高めてくれた3年生。ありがとう。

つらく長い運動会期間だったかもしれませんが、土ぼこりにまみれて頑張った流した汗の分だけ、生徒たちは貴重なものをつかんでくれたはずです。ぜひとも、運動会での学びを今後の人生に生かしてくれることを願っています。

## 滝紅中生全員の心に**正義の火**を！ (6/21朝礼講話)

今日は東京都ふれあい月間に当たり、「いじめ」について話しをしたいと思います。

非常に残念ですが、滝紅中でも、相手の身体の特徴を言葉でからかう卑劣な行為、いじると称して度を越した悪ふざけで相手の心を傷つける行為の報告を受けています。

さて、皆さんに問います。この2つの行為は「いじめ」に当たるのでしょうか。

答えから言うと、れっきとした「いじめ」です。「いじめ」かどうかは、人数に関係ありません。1対1でも「いじめ」に当たります。また、「いじめ」かどうかの判断は、相手の心の状態で決まります。相手がとてもつらい思いをしていれば、その時点でその行為は「いじめ」です。

もう一つ質問します。「いじめ」はなぜ起こるのだと思いますか。答えは様々考えられますが、絶対に間違っていない答えがあります。それは、「いじめる人間」がいるからです。この当たり前ともとれる答えを、よく考えてみてください。「いじめられる人間」がいるから「いじめ」が起こるのではありません。「いじめ」が起きるのは、「いじめる人間」がいるからなのです。滝紅中からいじめを根絶するには、「いじめられる人間」をなくすのではなく「いじめる人間」をなくさなければならないのです。

最後の質問をします。それでは「いじめる人間」をなくすにはどうすれば良いのでしょうか。この問題については、じっくりと自分の力で考えてほしいと思います。

私は、いじめ問題が中々解決に至らない原因は、傍観者、つまりいじめ行為を見て見ぬふりをする人間、笑いながらいじめを見ている人間がいるからだと考えています。卑怯な傍観者がいじめを助長したり、解決しにくくしたりしています。そのような傍観者を生み出さないためには、滝紅中生の心に「正義の火」を灯すことが不可欠です。この正義とは、悪をやっつけることではありません。正義とは、つらい思いや困っている人を助けることです。「いじめ」は卑怯で最低の行為である、絶対に許してはいけない、という「正義の火」を皆さんの心に灯すことができれば、いじめ問題を見て見ぬふりをする人は生まれてきません。たとえ起こったとしてもすぐに解決に向かうはずです。「正義の火」をみんなで持ち寄ることによって、いじめは絶対に許さない、という無言の雰囲気滝紅中の中にただよいはじめます。学校全体がこのような空気に包まれば、いじめる人間と見て見ぬふりをする傍観者のいる場所はなくなるはずです。

「滝紅中が一番の中学校」と誰もが思える中学校になるためには、いじめ根絶は避けて通ることはできません。小さくてもいいのです。決して消えることのない「正義の火」を、滝紅中生全員が心に灯してくれることを願っています。

## 滝野川ゴボウ植え付け (6/15校長日記)

練馬大根などと同じ江戸東京野菜である「滝野川ゴボウ」の植え付けを給食委員会が行ってくれました。ゴボウがしっかりと土の中で成長できるように、6組の生徒たちが雑草を抜いて土を耕し、一生懸命にうねをつくってくれました。ゴボウは細くて地中深く伸びていくため、土が軟らかく耕されてないと成長できません。

昨年は暑さのために収穫ゼロでしたが、今年の秋はたくさんの滝野川ゴボウが収穫できることを願っています。なお、収穫できたゴボウは給食の食材として全校生徒で食べる予定です。

